

みんなで語ろう座談会（第 1 回）

日 時：令和 6 年 9 月 1 9 日（木） 1 9 時～ 2 1 時

会 場：豊田市民文化会館 つながりリビング

参加者：文化活動者 4 名（クラシック奏者 1 名、演劇関係者 2 名、コーヒースタンド店主 1 名）、
文化振興財団 1 名、市文化振興課 1 名
計 6 名

<主な意見>

始めたきっかけは？

- ・ 豊田市美術館でガイドをしている知人の話を聞いて、車づくりもアートの延長線上にあるかもしれないと思い、アートに興味を持った。
- ・ 幼い頃、兄が打楽器とドラムを習っているのを見て、自分もやりたいと思った。母が音大卒でピアノ講師だったこともあり、後押ししてくれた（打楽器を習わせてもらった）。
- ・ 19 歳から演劇を始めた。きっかけは高校生のときに福岡でサウンドオブミュージックを観たこと。自分もやってみたいと思った。

自身の夢は？

- ・ 海外で個展を開きたい。
- ・ プロのオーケストラの団員になりたい。
- ・ 健常者も障がい者も一緒になって演劇をつくりたい。
- ・ 豊田市で大きな劇団となりたい。不登校の子などの居場所をつくりたい。

文化芸術とは？

- ・ 音楽は言葉が要らない。海外を旅していて、音楽で心が繋がることが魅力。
- ・ 学校に行きたくても行けなかったこどもが、演劇を経験し、学校へ行けるようになった。

普段の活動はどこで？

- ・ 日進市の市民会館はティンパニーの貸出があるため、そこで練習やオーディションの動画撮影をしている。持っていない楽器はイメージで練習している。豊田市でもそういった練習場所があると良い。
- ・ 市民活動センターや交流館で練習している。豊田市は名古屋市より施設使用料が安く、場所も多く、恵まれていると感じている。演劇はスペースがあればどこでも練習ができる。

豊田市の現状は？

- ・ とよた演劇祭は台本が無い演劇。稽古は通常 2、3 か月のところ、1 か月で創り上げる。エチュードだからこそ、個性が光るのが魅力。とよた演劇祭は、演劇をやりたいけどやる場がない人（昔演劇を経験したことあるような）の受け皿になっている印象。
- ・ 劇団に入るということは、労力がいる。活動はしたいけど、生活（仕事）と活動（稽古など）の両立が大変。それがネックで活動できない人は多い。

- ・豊田市には、それだけで食べていけるような劇団は無い。役者でプロはほんの一握りの世界。作家やテクニカルではそれだけで食べていけている人はいる。
- ・毎回赤字を考えながら舞台を創っている。お客を魅了するために舞台美術やテクニカルにお金を掛ける必要があり、演者の収入はほぼ無い。
- ・地域にも演劇教室は無いと思う。今は、市・財団事業のこども創造劇場くらいではないか。
- ・学校教育の中に、演劇がプログラムとして無い。学芸会も無くなってしまっていて、こどもたちが演劇に触れる機会が無くなっている。

普及のために必要なことは？

- ・豊田市では練習場所は困らないが、発表場所がない。設備があるのは市民文化会館くらいだが、大き過ぎる。100人規模で自由度があるミニシアターがあると良い。名古屋には、七ツ寺スタジオ、G/PIT、ナンジャーレ、ささしまスタジオなど小劇場がたくさんある。実際に使っている。
- ・こどもの頃、豊田市では劇団が小学校に来てくれていた。学芸会もあった。でも、何のために演じるのか分からず、ただやらされている感覚だった。周りの大人たち（先生）がこどもたちにもっと目的を伝えていくことは大事。
- ・学校教育に頼るだけではだめで、どうしたらこどもの心にささるか、インパクトを与えられるか考える必要がある。
- ・クラシックも演劇も、ハコの中だけではなく、もっと外に飛び出していく必要がある。
- ・小学校でクラシックのアウトリーチ活動するときには、こどもたちにまずは音を鳴らすことを楽しんでもらうよう工夫している。
- ・まちなかで演劇に触れられる取組をやっている地域もある。宮崎県では、劇団こふく劇場がまちなかで町民参加作品の創作など行っている。豊橋市でも同じようなことがある。
- ・関心が薄い層の興味を惹くには、他と同じことをやっているとだめ。商売では、いかに他との違いを出せるか考えている。
- ・SNSは、コロナ禍ではフォロワー3,000人いれば影響力があったが、今は万を超えないと戦略としては使えない。
- ・文化芸術で食べていける社会にならないと、このまちの文化芸術は廃れていってしまう。
- ・演劇を始めたいと思ったときに、入口が分からない人が多い。どこで誰が活動しているか見えないと思う。毎週とは言わないけど毎月、市内で演劇がやっていたら入口になる。

みんなで語ろう座談会（第2回）

日 時：令和6年10月3日（木）19時～21時

会 場：豊田市民文化会館 つながりリビング

参加者：文化活動者4名（コンサート企画者1名、作家・アートディレクター1名、芸大生1名、市民活動団体1名）、文化振興財団1名、市文化振興課1名
計6名

<主な意見>

始めたきっかけは？

- ・地域会議委員になり、高齢化率が高かったため、地域に若い人たちが住みたくなるよう、自然と音楽でPRしていこうとなった。中学校のPTAや青少年育成部会にも参加していたため、地域に音楽活動をしている子どもたちが沢山いることを知っていた。交流館で演奏会をスタートさせたが、規模が大きくなったためコンサートホールで開催するようになった。活動期間は10年以上。自分自身は工学系で音楽活動はしていない。
- ・幼い頃、唯一続いた習い事が工作だった。物心付いた時から、作ることが好きだった。姉が学校でもらってきたテラコッタで作品を作ったら、親が褒めてくれた。
- ・人間関係で悩んだりしたため、人とあまり関わらなくてもよさそうな、陶芸家になろうと中学生の時に思った（実際は、人間関係が密に関わる職業だったけど）。休職中に市民活動を始め、市民アートプロジェクトに出会った。父親が美大卒で、自動車デザインをしていた。面白いことが好き。

自身の夢は？

- ・自分の作品を作り続けたい。
- ・アーティスト活動がしやすい、アートが市民に受け入れられるまちになる豊田市をつくりたい。
- ・高齢者にとって、お洒落して出かけるきっかけとなるコンサートを開催し続けたい。人の暮らしが、文化で楽しくなる豊田市をつくりたい。

文化芸術とは？

- ・音楽や美術などの分野で一生懸命に打ち込んだことがある人は、人格形成ができている。食べていけなくても、人として大切なものが育っていると感じる。
- ・美しい街並みや、こどもたちの対話力など、そういったものの素地となる部分を文化芸術が支えていると思う。

豊田市の現状は？

- ・音楽大学を出ても、コンサートホールでリサイタルを出来ない人が多い。そういった人たちが気軽にリサイタルできるよう、自分でサロンをつくった人もいる。
- ・コロナ後に、学芸会や運動会などが小学校で開催されなくなったと聞く。もちろんすべての小学校ではないが、働き方改革によって子どもたちの体験機会が奪われているように感じる。
- ・交流館でコンサートを開催する場合、予約が1か月前からしかできない。コンサートの開催に

は、少なくとも1年前から準備をしないといけない。コミュニティ会議で了承をもらえれば1年前から予約ができるが、そういった事業ばかりではない。大きな会場では開催すると赤字になるし、アーティストに還元できずに申し訳ない。200人規模のコンサートができる会場でないと、採算が取れず企画しにくい。

- ・豊田市に限ったことではないが、アーティストはボランティアではない。きちんとした対価を支払うべきだと思う。ボランティアで行ってくれる善意に頼っていると、後継者がきちんと育たないと感じる。
- ・現在、部活動の地域移行で地域指導者を行っているが、生徒と地域指導者をつなぐコーディネーターが必要だと感じる。
- ・豊田市には安く借りられるアトリエや倉庫がない。瀬戸や多治見などは空き家で活用して窯業の倉庫が使えたりするので、多くの芸大生が住んでいる。教授も、そのまま住んでいる人が一定層いる。そういった人が増えると、アートのまちとしての土壌が育っていくのではないかな。

普及のために必要なことは？

- ・まちの雰囲気大事。多治見に行けば作家に合えるため、多くのバイヤーが行く。エリアの雰囲気は大切だと思う。
- ・作品の作られている過程が、気軽に見える（見せる）場所があるといい。アトリエや倉庫など。
- ・市民とアーティストを繋ぐ翻訳者が必要と感じる。岐阜陶磁美術館には、エデュケーターというポジションが存在する。学芸員は、あくまで研究者。
- ・アートが子どもの情操教育で終わってしまう場合が多い。もっと本格的に、専門的に学べる機会を増やせれば、それに関わるアーティストの仕事も増やせる。
- ・アウトプットのきっかけを作ってあげると、アートに興味がない人に届き、観に行くきっかけになるのではないかなと思う。理論で考える工学系の人たちにも届くのではないかな。
- ・教育のためのいい素材があるけど生かしていないと感じる。もう少し、教員を教育できる機会があるとよい。対話型鑑賞ができる教員が増えるとよい。子どもたちが学問としてアートを学べる機会があってもよいのではないかな。
- ・科学館みたいに、エッシャー展みたいに、体験とアートが融合すると初心者でも楽しみやすいと感じる。

みんなで語ろう座談会（第3回）

日 時：令和6年10月9日（水）19時～21時

会 場：豊田市民文化会館 つながりリビング

参加者：文化活動者4名（演劇関係者1名、美術作家2名、文化拠点オーナー1名）、
文化振興財団1名、市文化振興課1名
計6名

<主な意見>

始めたきっかけは？

- ・人とコミュニケーションをとりたかったから高校で演劇部に入った。その頃、市民劇にも参加し、その影響で富良野塾に参加し、2年演劇を勉強した。
- ・滋賀県の田舎に育ち、子どものころは文化芸術に触れる機会はほとんどなかった。自然が美しいくらい。中学3年生の時の担任の先生が、たまたま美術の先生だったので、普通科に進んでもあんまり将来が見えず、美術科のある高校に進学した。
- ・小学3年生までは絵を描くのが苦手だった。小学3年生の時の友達の絵という図工の課題の時に、自分の絵を見た担任の先生が、それでいい、と言ってくれ絵が描けるようになった。もともと言葉で表現するのが苦手なので、絵を描く事が自分の気持ちを言語化するツールになっている。

自身の夢は？

- ・豊田を面白くすること。
- ・私ができる何かで世界一になりたい。
- ・豊田市美術館で個展を開催したい。

文化芸術とは？

- ・演劇は、イエス・アンドで続いていくもの。人を否定しない精神が演劇にはある。どんな答えでも間違いじゃない。足りないところをお互い補い合えるもの。
- ・現代美術もわからなくてOKでいい。正解がない。
- ・人それぞれ文化芸術の捉え方は違うと思う。文化は人の生活そのもの、芸術は自己表現のひとつで、2つは別物だと思っている。文化は芸術を支える存在。

普段の活動はどこで？

- ・今は、山村地域の体験施設などで勤務している。そこでワークショップの手伝いなどをしており、今後自分の活動に活かせればと思う。デカスプロジェクトや子ども造形教室、高校の非常勤講師など、人と関わりながらプロジェクトとして作品を作ることが多かったので、引きこもって一人で黙々と作品をつくりたくなってきている。
- ・今は山村地域の中間支援組織で働いている。そのほかには、広告依頼を受けたり、ペットの似顔絵を書いたり、墨絵教室を開催したりなど。

豊田市の現状は？

- ・文化芸術活動を行っている人、育った人は多く、豊かな文化があるのに、どうしても文化不毛の地と言われてしまう。
- ・山形の大学にいたが、豊田市美術館は有名だった。市外・県外の文化関係者と話すと、美術館とコンサートホールのごときは皆からすごいと言われる。それくらい有名なのに、市民は実際に行った事が無い人も多くいる。
- ・自動車製造やものづくりもアートと捉えられるが、そう感じていない人は多い。生活の中に芸術はたくさんある。アートの捉え直しが必要なのではないか。
- ・農村舞台アートプロジェクトやデカスプロジェクトでは、作品をつくるだけでは接点を持てない人や地域と繋がれるところが良い。そういったプロジェクトが続くと良い。
- ・豊田市はフィールドとして非常に面白い。地元の人がいろいろ案内してくれて、地域のことを沢山知れた。
- ・活動者もたくさんいて、施設もたくさんあって、恵まれていると感じる。カジュアルから本格的なものまで、みんなが気軽に観られる環境がある。それを多くの人は感じていない。
- ・単純に娯楽が増えたので、演劇鑑賞者は減ったと思う。3交代で勤務している人も多いので、実際決まった時間に毎週行う文化活動に参加するのは難しい現状もある。演劇をやりたくても、定年後にしかできない人も一定数いる。

普及のために必要なことは？

- ・地域の関心層が厚くなると、アーティストも育つのではないかと感じる。
- ・文化芸術に接点があるかどうか。生活の中に接点があることを認識してもらうことが必要。
- ・文化芸術に気軽に触れられる場所があることが大切。名古屋市のスローアートセンターみたいな場所があるとよい。通りがかりの人が、アートに意をせず触れているのが良い。
- ・子どもは天才なので、自由にアートを体験できると良い。こども造形教室などでは、子ども自身が正解を求めたり、親の顔色を伺ったりしているので、そうではなく自由表現できるように親は気を付けなければならない。
- ・演劇では、コミュニティからはじき出されて、自分を認めたい、認めてもらいたいと、自己肯定感を高めたいと思っている子の参加が一定層あり、大切にしていける必要がある。
- ・演劇・コンサートなど、本当にいい出会いとなるように考えないといけない。そこをきちんとコーディネートすることが必要。
- ・市内で演劇を観る機会がとても少ない。演劇をやっている高校生などが、安く鑑賞できる公演があると良い。
- ・小学校で観た演劇を今でも覚えている。様々な家庭環境があるため、学校を通して文化芸術活動に触れることは非常に大切。